

Ⅲ - B332

ジオアート

—海蝕洞門・地海のジオアーチ橋編—

防衛大学校土木工学教室 正会員 山口 晴幸

大地を形成する土は人間、生物、植物などの生命体を育む上で、不可欠で重要な役割を果たしており、人工的に造り出すことのできない代表的な地球上の物質の1つと考えられます。何十、何百、何千万年と、途方もない年月を費やして自然が産出した貴重な産物と言えます。地盤工学的分野では、工学的立場から土を利用・活用して社会基盤整備の進展と充実に寄与しており、土から多くの恩恵を受けて来ています。環境時代に向け、環境地盤工学的立場から、土（土層・土質）の保護・保全活動を重要な課題と位置づけ、その活動に取り組むことは、「自然との共存共栄」や「持続可能な開発」を目指す、これからの地盤工学分野が社会的に果たさなければならない重要な役割の1つと考えられます。

著者によって提案された「ジオアート」は、人間が決して造作・模倣できない複雑な自然環境が生み出した、感動と浪漫を伝える芸術的にも素晴らしい造形美を形作っている大地の堆積構造や地形・地質構造などに、敬意の念を込め、その偉大さと貴重性を子々孫々に受け継いでいくためにも、大地の保護・保全は世代責任上、果たさなければならない課題と言う意味で、生まれた造言です。

ジオアートの考え方による活動は、狭義の意味では、大地に関して収集した土（土層・土質等）の広域的な情報を視覚的に表現することに重視しています。基本的には、拡大写真、接近写真、顕微鏡写真等の写真表示を多用し、大地の重要性と貴重性を提示することにあります。広義の意味では、収集した資料を活用し、大地の保護・保全活動の積極的な推進を測ることにあります。例えば、土に携わる専門家のみならず、専門外の方々にも興味を持っていただき、日本列島の土浪漫や土紀行を満喫してもらえるような「ジオアート大図林解説選集」の作成や「ジオアート百選」の選定指定（学会名入りの説明板を設置。図-1）などを企画していくことです。地盤環境視点から、希少な水鳥、小動物、植生などを育む生息環境などに関連する自然環境問題で貢献することです。例えば、ラムサール条約加盟湿地や世界自然遺産登録地などの特異な地盤環境の調査の実施などを企画していくことです。また巨大遺跡などの歴史文化遺産や土文化などを対象として土と基礎や土構造物に見られる古代人や前世代人の英知や創意工夫などに関する資料を地盤工学的立場で収集し、歴史的文化遗产に学びその保護・保全活動に貢献していくことです。さらに大地の保護・保全活動を広く普及する意味では、例えば土曜日を「土の日」とし、ハイキングも兼ね、「ジオアートウォッチング」や「ジオアートウォーキング」を企画して「ジオアート写真コンテスト」等を実施し、多くの一般の方々に自然を通して大地に親しんでもらい、その重要性や貴重性を認識していただき、保護・保全活動を普及していくことも一案と考えられます。

本報告では、ジオアートの1例として、本土とその周辺の島々、伊豆七島、小笠原諸島、薩南諸島、琉球列島の45地点（図-2と3、一部未調査）で収集した巨大海蝕洞門につて、「地海のジオアーチ橋」編として紹介します。

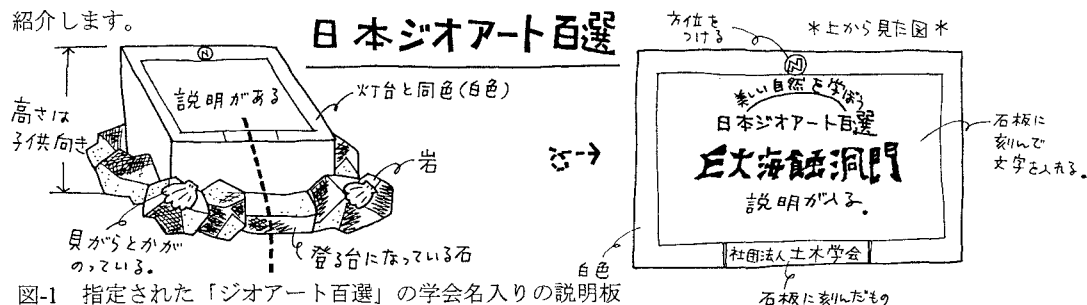
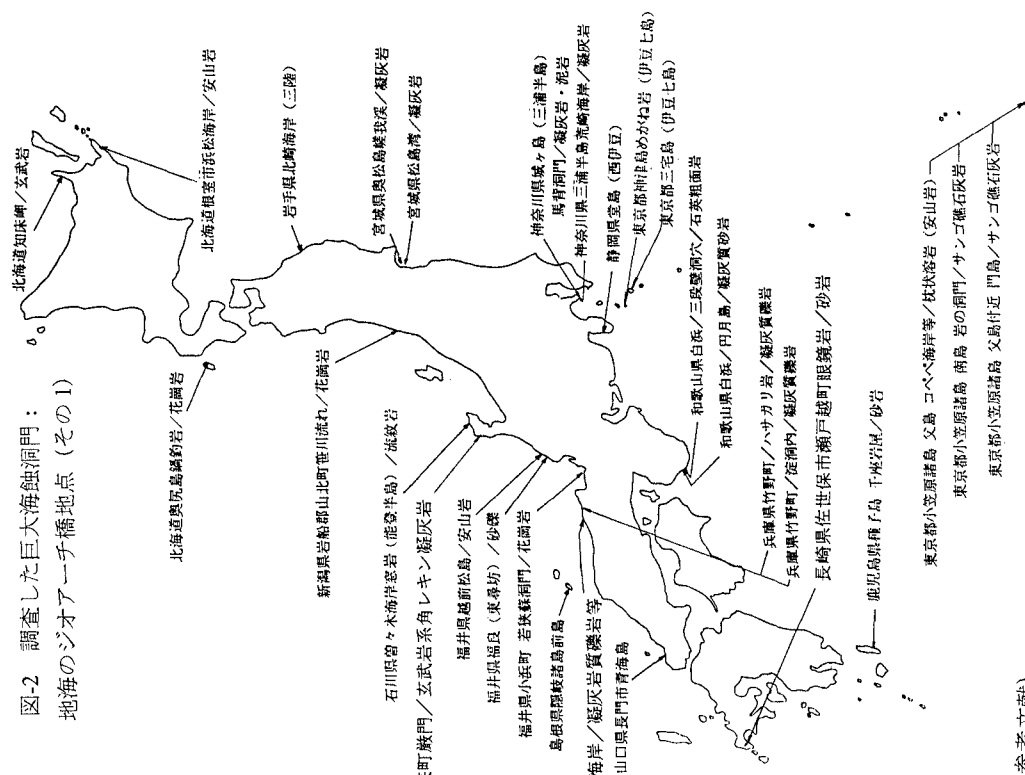


図-1 指定された「ジオアート百選」の学会名入りの説明板

図-2 調査した巨大海蝕洞門：
地海のジオアーチ橋地点（その1）



(参考文献)

1) 山口晴幸：地盤環境読本、地盤工学会編、pp.30～32、1996.3.

図-3 調査した巨大海蝕洞門：
地海のジオアーチ橋地点（その2）

